

日本企業が海外に打って出るために

—英語によるコミュニケーション能力の強化を—

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
2. 先週の日曜日に竜巻が起こりまして、栃木県では真岡市や市貝町、茂木町の方々が大変な被害に遭われたということでお見舞い申し上げます。また、茨城県の筑西市や桜川市、常総市、つくば市でも被害を受けたということで、本当に大変だったと思います。どうか頑張って立ち直っていただければ有難いと思います。
3. このごろ、何が起こっても大丈夫なようにするにはどうしたらよいかということをよく考えてまいります。ヨーロッパではフランスの政権が変わったり、ギリシャは総選挙が終わった後に政局がもめたりしています。もしこの不安定な様子が続くと円高がさらに進み、さらには日本の政局がもめると財政面が大変な状況になり、その結果、日本国民の生活、日本企業の経済的活動が非常な苦難を伴うことになるかもしれないとよく言われています。また、3.11 東日本大震災や先日の竜巻や色々な災害がたくさん起こるような気がします。ですから、これから先はどのようなことがあっても驚かない、また、災害が発生しても一日も早く立ち直ることが我々に求められるのではないかと思います。これからの日本をどのようにするかという議論がたくさんありますので、今日は自然災害の危機に立ち向かうにはどうしたらよいかというお話を少しさせていただきます。
4. 日本の景気は非常に悪くてもものやサービスが売れない、その結果 20 年間ずっと物の価格が下がり、賃金も上がらずに下がりつつあるということで企業が国民が大変な思いをしています。これを「デフレ」と定義している方が多いようです。このようなデフレの状態がもう 20 年近く続きました。このあとまだどのくらい続くのかが大問題です。デフレは 20 年ないし 30 年、長いときは 40 年続くと言われていています。もしかしたら、あと 10 年間以上はデフレが続くかもしれません。また、アメリカやヨーロッパも何年前から日本と同じような状況に陥ってしまいました。ですから、4、5 年前から始まったアメリカやヨーロッパのデフレもあと 30 年か 40 年続くかもしれません。そうになった場合、もしかしたら、日本は一番早くデフレから抜け出す国かもしれないと言われていています。
5. その一方で、世界は人口爆発で、人口がこれから 20 億人近く増えるとも言われていますので、世界中にデフレで苦しむ国と人口爆発に苦しむ国があることとなります。ただ、このような国の中でも新興諸国であるインドネシアやベトナム、インド、中国などはこれから伸び盛りの国ですので、日本はそれらの国々に対して何かできることはないかと探すのも一つだと思います。

6. 先週の日曜日の朝 7 時 30 分からのテレビ番組でインドネシアが特集されていて、公文式の学習教室が出ていました。インドネシアの公文式では、11 万人もの生徒さんが一所懸命に勉強しているということでした。これから日本と同じように豊かな国になる道を辿る国にとっては、子どもたちの教育は非常に盛んになりつつありますので、公文式の教室などはそのような国に行って一所懸命子どもたちの教育を担当しているのかもしれませんが。また、私も行ったことのあるベトナムのホーチミン市の公文式の教室には、一か所に 1000 名近くの生徒さんがいて一所懸命学んでいました。また、インドネシアのジャカルタにあるヤマハ音楽教室にも、一か所で 3000 名もの生徒さんが集まって音楽の勉強をしていました。これらのこともまた、すごい話だと思います。世界中には、子どもたちの教育にこれからもっともっと取り組もうという国がたくさんあります。

7. また、都市化といいまして、新興諸国でも都市に地方から人がどんどん集まっています。そこで、水道、上水道や下水道をはじめ地下鉄、鉄道、バスの路線網など色々なものがこれから整備されなければなりません。さらに、電力やガスなど社会的なインフラといわれるありとあらゆるものが必要になってくる国がたくさんあります。先進国でも昔からの大きな都会では、古いビルを全部建て替えて新しいものにすることもこれからたくさん起こってきます。日本はものづくりが非常に盛んな国ですので、社会の基盤整備に大切さを見出して、世界中の社会的なインフラ整備、社会基盤の整備をすることが大事かと思います。日本の場合はとても丁寧に丁寧に仕事をしますので、日本の製品は本当に素晴らしいと他の国の方もそれらを使いたがっています。また、日本の水道は外国の方から高く評価されるほど綺麗な水で、飲んでも病気にならないということです。ですから、日本の製品や日本の水・水道水、日本の電力などで勝負ができると思います。

8. ただ最大の問題は、誰がそこに行って働くのかということです。なかなか言いにくい話ですが、日本の方は英語があまりよくできません。英語を書くことはとてもきれいな字でできますが、話すときは単語だけでしゃべって文にならないなど、本当に小学生以下かもしれません。幼稚園生が話すような英語しか話せない方が日本人には多いようです。読むことは得意かもしれませんが、実際に話すことになると、日本人が話す英語が世界で一番たどたどしいことになってしまいます。このようなレベルの英語を話しているようですと、誰からも尊敬されません。もしそのような方がリーダーになって「仕事をして下さい」と皆さんに発破をかけたくても、日本語では通じません。日本人には、新しい価値を創造するような熱い思いや絶対に負けないという心意気があると思います。しかし、語学力の、特に英語によるコミュニケーション能力のレベルだけがあまりにも低いために、それを大きく疎外している原因になっていると思います。ですから、日本の方が世界中で仕事ができるようにこれから一所懸命に英語を勉強して、世界中に羽ばたかなければいけないと思います。

9. 今日は、これからの日本が世界の中でどのように役割を果たしたらよいかというお話をさせていただきました。

— 2012 年 11 月 23 日林明夫記 —